

島の 逸品

問合せ 広報広聴課☎ 983・2620

長谷川園 “ひらたけしめじ”

第4回



静岡県が全国や海外に誇ることのできる価値や特徴のある商品を認定する「しづおか食セレクション」に、このたび、市内の長谷川園（川原ヶ谷）で生産される「ひらたけしめじ」が認定されました。

「ひらたけしめじ」は、「元祖シメジ」とも言える「在来ひらたけ」で、栽培にあたっては、良い菌種だけを選別、培養したうえで、そこからもう一度選別するというこだわりのノコです。

長谷川園代表の橋内弥生さんは、

「栽培に必要となる『おが粉』も国産を使用しているので、味が濃く、うま味も強く、香りも良い



▲代表の橋内弥生さん

です。苦みもないでの、鍋や天ぷらなど、幅広い料理に合いますが、一番のおすすめは“焼き込みご飯”です。炒めて食べる場合は、焦げ目がつく程度に炒めるとおいしいです。」と語っていました。

今後について、橋内さんは、「ひらたけしめじは、全国でもあまり栽培されていないキノコです。先代の父から受け継いだ手法をそのままに、味をしっかりと守つていきます。園の運営も、『農福連携』を実現していきたいです。」と語りました。

この「ひらたけしめじ」は、年間を通じて生産され、飲食店やホテル向けに出荷されるほか、学校給食でも提供されています。また、JAふじ伊豆フアーマーズマーケットみしまるかんや伊豆村の駅、長谷川園直売所で販売されています。

なぜ三島を選びましたか？

子どもの就学を控え、住まいを見直そうと考えていた時期に、ちょうど会社がリモートワーク中心の働き方へ移行し、首都圏での住まい探しに難しさを感じる中で「移住」という選択肢が視野に入りました。新幹線通勤が可能で、首都圏に無理なくアクセスできる地方を探した結果、条件に合っていたのが三島でした。

三島での生活スタイルを教えてください

平日は、自宅から見える富士山を眺めながらリモートワーク。

休日は特に、夏の源兵衛川での水遊びが大好きで、夜にホタルを見られた時は感動しました。



最後にメッセージをお願いします

東京では、自然環境で遊ぶにはレンタカーや長時間の移動が必要でした。三島では街のあちこちに綺麗な川が流れ、気軽に水遊びができる環境が夢のようです。先輩市民の皆さんは移住者に寛容で温かく迎えてください、とも住み心地が良いと感じています。もし私たちと同じように移住を考えている方がいたら、今度は私たちから市の魅力を紹介できるようになりたいですね。

ようこそ 三島へ Welcome

問合せ 広報広聴課☎ 983・2620

…移住者さんにインタビュー…



古嶋さんファミリー

東京都出身のご主人と兵庫県出身の奥さん、男の子3人のファミリー。2023年8月に東京都から三島市へ移住。ご主人は、リモートワークを中心に、月に5回程度、都内へ新幹線通勤しています。

3月29日(日)

親子大キャッチボール大会

参加者募集

「長伏グラウンドA」のリニューアルを記念し、式典と併せて、記念イベントを開催します。当時は、野球が初めてのお子さんでも安心して参加できる「親子大キャッチボール大会」を行います。ぜひお気軽にご参加ください。

長伏グラウンドA リニューアル記念 オープニングセレモニー

◆スペシャルゲスト



和田一浩さん



岩瀬仁紀さん

プロ野球名球会の会員が参加予定！
親子大キャッチボール大会と紅白戦
で指導を受けることができます！

◆タイムスケジュール

午前9時～	記念式典
午前10時～	親子大キャッチボール大会
午前11時～	市内中学校野球部生徒による紅白戦

※イベントに参加しなくても観覧可

※当日はキッチンカーの出店あり



寄贈された「大谷グローブ」 でキャッチボールしよう！

メジャーリーグで活躍する大谷翔平選手から寄贈され、令和6年1月に市内全小学校に配られたグローブも当日会場で使うことができます！

※ナイター照明設備はスポーツ振興くじ助成金を受けて整備されました。



◆親子大キャッチボール大会詳細・申込み

対①小学生以下の子どもとその保護者

▶野球初心者・未経験者優先

②上記以外で野球に興味のある人

▶友達や恋人、個人での参加もOK

※応募多数の場合は①優先で抽選

定200名

■運動ができる服装、持っている人はグローブ

■2月27日(金)までに電子申請

問スポーツまちづくり課 ☎ 987・7571



◀親子大キャッチボール大会の
申込(電子申請)はこちら



杉山 幸子(62歳)
金澤 神奈(佐野小6年)

わたしのおばあちゃんは、いつも家族のことを見ていて、必要なときには支えてくれる頼もしい存在です。何気ない会話や手料理の温かさに、ふだんは気づきにくい思いやりがたくさん込められていると感じました。日々のやさしさや気遣いに心から感謝しています。私が小さいころから変わらず優しく接してくれて、どんなときも穏やかな笑顔で支えてくれました。私は、これまでおばあちゃんに支えてもらつた分、これから少しずつでもお返しできるようになりたいと思っています。

わたしのおばあちゃん

当番 かなざわ かぐら